



研究者名※	久保田 静香	学位※	博士(フランス文学文明 パリ第4ソルボンヌ大学)
所属※	文学部 史学科	職名※	准教授
連絡先	kubotas@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/kubota.shizuka		
研究分野※	人文学・ヨーロッパ文学		
研究キーワード※	仏文学・仏語圏文学、西洋思想史		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<p>「初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想:美術と修辞学の創造的共同」 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 桑木野 幸司(研究代表者) 久保田静香(研究協力者) 2020年4月 - 2024年3月</p> <p>「近世フランスにおけるカルテジアンと修辞学の伝統—ラムスからベルナル・ラミヘー」 日本学術振興会 科学研究費 若手研究 久保田静香(研究代表者) 2019年4月 - 2022年3月</p> <p>「近世フランス人文主義者の国語意識—学術語と俗語の間、ペトルス・ラムスとその周辺—」 日本学術振興会 特別研究員奨励費(PD) 久保田静香(研究代表者) 2015年4月 - 2018年3月</p> <p>「デカルトにおける説得と論証およびその人文主義的起源に関する研究」 日本学術振興会 科学研究費基盤C 武田 裕紀(研究代表者) 久保田静香(研究協力者)2009年4月 - 2012年3月</p> <p>「デカルトとレトリック」 日本学術振興会 特別研究員奨励費(DC2) 久保田静香(研究代表者)2004年4月 - 2006年3月</p>		
社会貢献・産学官連携活動等	日本女子大学生涯学習センター公開講座「西欧レトリックの伝統—誕生から整備まで—」2021年6月9日(水)		
受賞歴			

研究領域	人文学・ヨーロッパ文学 (仏文学・仏語圏文学、西洋思想史)	(SDGs)
研究テーマ※	近世フランスにおける哲学的著作と西欧修辞学の伝統	

<p>概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)</p>	<p>【研究の背景・目的・内容】 フランスを代表する哲学者であるデカルトおよびデカルト周辺の思想家(ラムス、モンテーニュ、バルナール・ラミなど)のテキストを、哲学研究ではなく「文学研究」の領野から、「文献学」という手法をもって、とりわけ「西欧レトリック(修辞学)史」の文脈において再検討することを、本研究の基本姿勢としている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 デカルトおよびカルテジアン(デカルト主義者)は、近代以降のフランスにおいて、「レトリック」が「弁論術・説得術」から「修辞学・美辞学」へと変容するにあたって大きな役割を果たした。この歴史的事情を、デカルト主義の先駆ともいわれる16世紀の人文主義者ペトルス・ラムスから、デカルト思想の洗礼を受けた17世紀後半のカルテジアン(とりわけポール＝ロワイヤル派とバルナール・ラミ)へと至る、一連の学芸(litterae, lettres)および文芸(belles-lettres)の改革の系譜を辿ることで、その内実を明らかにする。これによって同時に、近代修辞学—18世紀のデュマルセや19世紀のフォンタニエに代表される「文彩(figures)」研究—へと至る前景を描き出す。</p> <p>伝統的なレトリック(弁論術/説得術)の分野が解体に向かう動きを追うことで、近代知や近代文学を裏支える価値観(「独創性」や「内面性」など)に根本的に備わる「歴史性」の解明にも大きく資するであろう。</p> <p>【研究方法の特色】 日本ではデカルト研究はもっぱら哲学研究者や一部の科学史研究者たちの手に委ねられてきたが、欧米のフランス文学研究者の間では、早くも1970年代にデカルトとレトリックの問題に関心が寄せられ、1980-90年代にかけては、文体論、レトリック史・文学史、ディスクール分析、語用論など、デカルトの用いる言語の特質の解明へと向かう研究が続々と現れた。ところでこれらの研究は、近接領域にありながらも研究方法を異にしていたため、散発性を免れずにいた。こうした国際的な研究動向を受け、本研究ではとりわけレトリック史・文学史研究の方法に依拠して当該問題の深化を図っている。</p>
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<p>【博士論文(フランス語)】 <i>Descartes et l'éloquence de la vérité. Les héritages jésuite et humaniste</i> (デカルトと真理の雄弁—イエズス会と人文主義の遺産—), Shizuka KUBOTA, パリ第4大学、フランス文学文明博士、2012年2月</p> <p>【主要な学術論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> - « La rhétorique cartésienne des passions : les signes extérieures ou la persuasion par l'actio », Shizuka KUBOTA, 『関東支部論集』第14号, 日本フランス語フランス文学会関東支部, 2005年, 43-55頁(フランス語論文・査読有) - « Descartes orateur et poète. Analyse d'un texte de jeunesse : la dédicace du placard de licence en droit (1616) », Shizuka KUBOTA, 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第53輯, 2008年, 131-151頁(フランス語論文・査読有) - « Enthousiasme et inspiration chez Descartes : à travers un héritage littéraire de la Renaissance dans <i>La Recherche de la Vérité</i> », Shizuka KUBOTA, 『フランス語フランス文学研究』第98号, 日本フランス語フランス文学会, 2011年, 17-30頁(フランス語論文・査読有) -「ラムス主義レトリックとデカルト—近世フランスにおける自由学芸改革の一側面—」, 久保田静香, 『エクフランス—ヨーロッパ文化研究—』第4号, 早稲田大学ヨーロッパ中世ルネサンス研究所, 2014年, 60-77頁(日本語論文・査読有) -「ペトルス・ラムスの国語意識—『古代ガリア人の慣習』(1559)とフランス語顕揚—」, 久保田静香, 『関東支部論集』第23号, 日本フランス語フランス文学会関東支部, 2014年, 15-28頁(日本語論文・査読有) -「16世紀フランスにおける起源神話と雄弁の表象—ラムスとボダンを中心に—」, 久保田静香, 『ロンサル研究』第29号, 日本ロンサル学会, 2016年, 1-28頁(日本語論文/フランス語要旨付き・査読有) -「デカルトとプロギュムナスマタの伝統—イエズス会学校のレトリック教育を經由して—」, 久保田静香, 『明學佛文論叢』第50号, 2017年, 1-40頁(日本語論文・査読有) -「ラムスとモンテーニュカエサル『ガリア戦記』からの借用を手がかりに—」, 久保田静香, 『フランス語フランス文学研究』第112号, 日本フランス語フランス文学会, 2018年, 35-50頁(日本語論文/フランス語要旨付き・査読有) -「ラムスと“限定されたレトリック”」, 久保田静香, 『明學佛文論叢』第52号, 2019年, 77-106頁(日本語論文・査読有) -「アンニウスがみた起源の夢—16世紀フランスにおける民族神話の流行と国語意識の芽生え—」, 久保田静香, 『ユリイカ 12月号 特集・偽書の世界』, 青土社, 2020年, 261-270頁(日本語論文・招待有) -「デカルトと記憶術の伝統—ラムス主義を經由して—」, 久保田静香, 『日本女子大学文学部紀要』第70号, 2021年, 65-79頁(日本語論文・査読無)
<p>共同研究・外部機関との連携への期待</p>	<p>「近世フランスの(知脈)研究会」(大阪大学主催)での共同研究(フランス文学・思想・美学の専門家との分野横断的研究)</p>